



確かな学力の向上をめざして【9月】

ICTを効果的に活用し、児童生徒の資質・能力の育成を図る

～ICTの活用が現在どの段階か確認してみましょう～

SAMRモデルとは、ICTの活用が、授業づくりにどのような影響を与えているかについて段階的にその状況を示したものです。例えば、資料中のSやAの段階では、「教師」が主語となって活用例が示されていますが、段階が進むにつれ、「子ども」が主語となっていく、授業や教育活動の中でICTの活用を子どもたちが適切に判断する学びへと発展していくイメージを示しています。

ICTの「活用充実期」である令和5年度は、子どもが使い方や場面を「選ぶ」、教員は子どもに使い方や場面を「託す」ことを目標としています。自校の活用状況を確認するとともに、今後のICT活用のあり方のイメージをもち、子どもたちの資質・能力の育成に役立てていただきたいと思います。

SやA段階を充実させることで、M段階を目指しましょう！

とっとり県版SAMRモデル

教師主導

学習者が主体

Substitution

〈代替〉

Augmentation

〈増強〉

Modification

〈変革〉

Redefinition

〈再定義〉

アナログでできたことをデジタルで代用

●紙でもできることをデジタル化する

- (例) 教師が…
- デジタル教科書で本文を提示する
 - 端末を使って作図する
 - ドキュメントで作文を書かせる
 - PDFで課題を配布、回収する
 - 大型提示装置を板書代わりに使う
 - カメラの代わりに、端末で写真を撮影させる
- ※これらを子どもが自ら選択する場合は、「M」段階にある

デジタルの特性を生かして、学習効果向上

●デジタルの利用により付加価値が加わる

- (例) 教師が…
- 全員の考えを共有して、思考させる
 - ファイルを共有して共同編集させる
 - コピーや校正の機能を使って文章を推敲させたり、試行錯誤させたりする
 - コメント機能で相互評価させる
 - データの即時集計や可視化をする
 - デジタル教科書を使い、英語の音声を流す
 - 児童生徒の学力に合った問題を出題するコンテンツを活用させる

授業デザインが変容し、新たな学びの実践へ

●個別最適な学びや協働的な学びの実現に近づく

- (例) 子どもが…
- 「A」段階までの取組を自ら選択して学習に活用する
 - スタディ・ログを積み重ね、レコメンド機能等も活用しながら、学習調整を行う
 - 校外とオンラインでつながり、共同でPBL(プロジェクト型学習)に取り組む
 - 自分の苦手分野、必要な教材を自覚し、自分で予定を立てて学ぶ

実社会の課題解決や新たな価値の創造

●実社会の課題解決や新たな価値を創造する

- (例) 子どもが…
- 学習成果をSNSやHPをとおして社会にリリースする
 - 最新テクノロジーを積極利用する
 - ICTによるタスク管理や相互コメント等によってプロジェクトを進行・完了する
 - 空間的、時間的にとらわれず学習する。
- ※新たな可能性が開かれる段階のため、「M」以上の取組を「R」と捉える

紙でも
できる活用

デジタルだから
こそできる！

子どもが端末
の活用を選択

実社会との
つながり

★教育DX推進員等による巡回相談★

9月から11月末にかけて教育DX推進員が各学校を巡回訪問します。普段のICT活用の様子や困りごと等について話をし、ICT活用の支援をしていきます。日時が決まり次第、訪問者が連絡します。

【教育DX推進員のご紹介】

ご活用ください！

8月より中部教育局に大羽省吾教育DX推進員が着任しました。ICTを活用した授業づくり、校務改善などの情報提供や支援をします。ご要望などありましたら、いつでもご連絡ください。

TEL:0858-23-3253